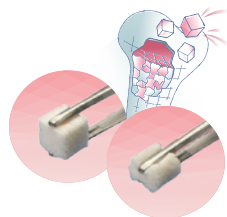


Collagen Hybrid ReFit リフィット®



製品一覧

償還分類；078 人工骨 (1) 汎用型 ②吸収型 イ多孔体 ii 蛋白質配合型

PB-101010



PB-103020



形 状	品 番	寸 法	包装単位/箱	区分名略称
ブロック	PB-101010	10×10×10 mm	1個 (1.0mL)	人工骨：AB-06-2
	PB-103020	10×30×20 mm	1個 (6.0mL)	

【使用目的又は効果】

- 以下の骨欠損における骨再生の促進
 - 骨腫瘍等、疾病の治療により生じた骨欠損
 - 骨折等、外傷により生じた骨欠損
 - 自家骨採取により生じた骨欠損
- 自家骨(同種骨)移植の補助/代替

【禁忌・禁止】

- 再使用禁止
- アナフィラキシーの既往のあるアレルギー患者または 重度のアレルギー患者、もしくは他のブタコラーゲン含有製剤に対するアレルギーのあることが知られている患者。

※仕様、形状は一部変更することもあります。
※掲載の写真・形状図は実物大ではございません。

PENTAX

製造販売業者

HOYA Technosurgical 株式会社

〒160-0004 東京都新宿区四谷4-28-4

TEL 03-5369-1710 FAX 03-5369-1711

■札幌オフィス 〒060-0007 札幌市中央区北七条西13-9-1 TEL:011-241-3473 FAX:011-241-3472
■仙台オフィス 〒981-3133 仙台市泉区泉中央1-7-1 TEL:022-371-6944 FAX:022-371-8924
■名古屋オフィス 〒461-0001 名古屋市中区東1-21-27 TEL:052-955-8572 FAX:052-955-8573
■大阪オフィス 〒542-0081 大阪市中央区南船場1-17-9 TEL:06-6263-1679 FAX:06-6263-1686
■福岡オフィス 〒810-0802 福岡市博多区中洲中島町3-8 TEL:092-281-6860 FAX:092-281-6869

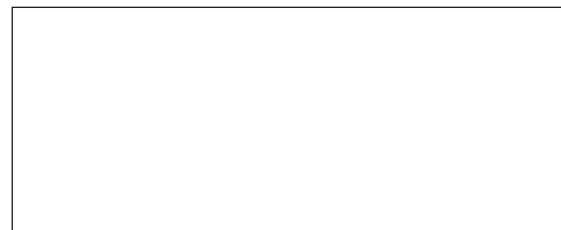
URL www.hoyatechnosurgical.co.jp

ご注文先

益子工場

〒321-4292 栃木県芳賀郡益子町大字塙858

TEL 0285-72-6253 FAX 0285-72-6259

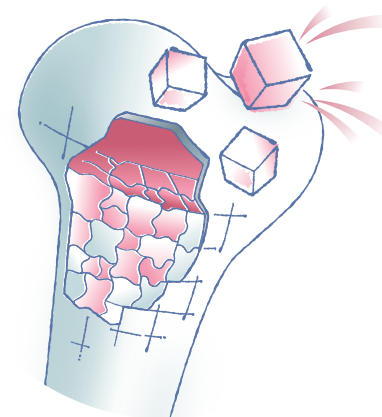


RF101902
2015年9月作成

PENTAX

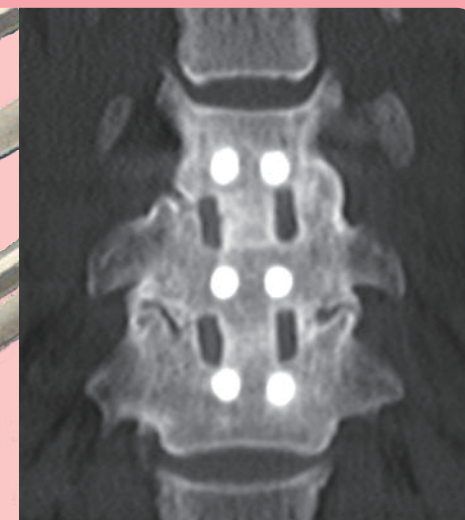
医療用品 4. 整形用品 高度管理医療機器 コラーゲン使用人工骨

Collagen Hybrid ReFit リフィット®



臨床ケースレポート

資料提供 東京医科歯科大学 整形外科 吉井 俊貴 先生
埼玉県済生会川口総合病院 整形外科 新井 嘉容 先生



症例 1

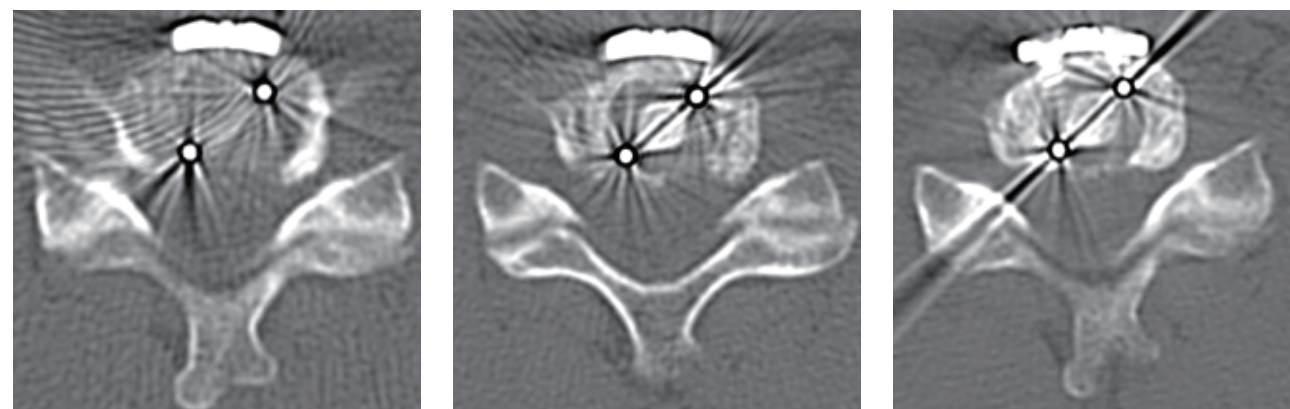
頸椎椎間板ヘルニア(C5-C6)

56歳 / 女性



術前 術後1週 術後3ヶ月 術後6ヶ月 術後1年

CT画像



術後1週 術後6ヶ月 術後1年

PB-101010



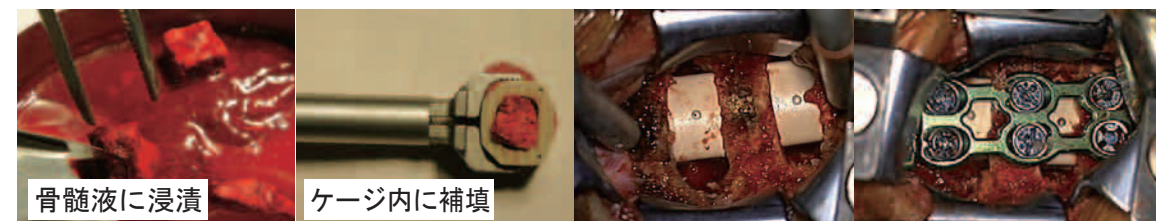
歩行障害などを主訴に当院へ来院。頸椎椎間板ヘルニアに対して1椎間の頸椎前方除圧固定術を行い、PEEKケージ内に骨髓液に浸漬させたリフィット(10mm×10mm×10mm ブロック1個:1mL)を充填した。術後3ヶ月のレントゲン像において、ケージと椎体とのクリアゾーンを認めず、術後6ヶ月のCT像では、人工骨の吸収置換を確認し、骨癒合と判定した。さらに術後1年においても椎体間の骨架橋の増加を確認した。現在、症状は改善し、独歩可能である。

症例 2

頸椎症性筋萎縮症(C4-C5, C5-C6)

54歳 / 男性

術中写真



骨髓液に浸漬

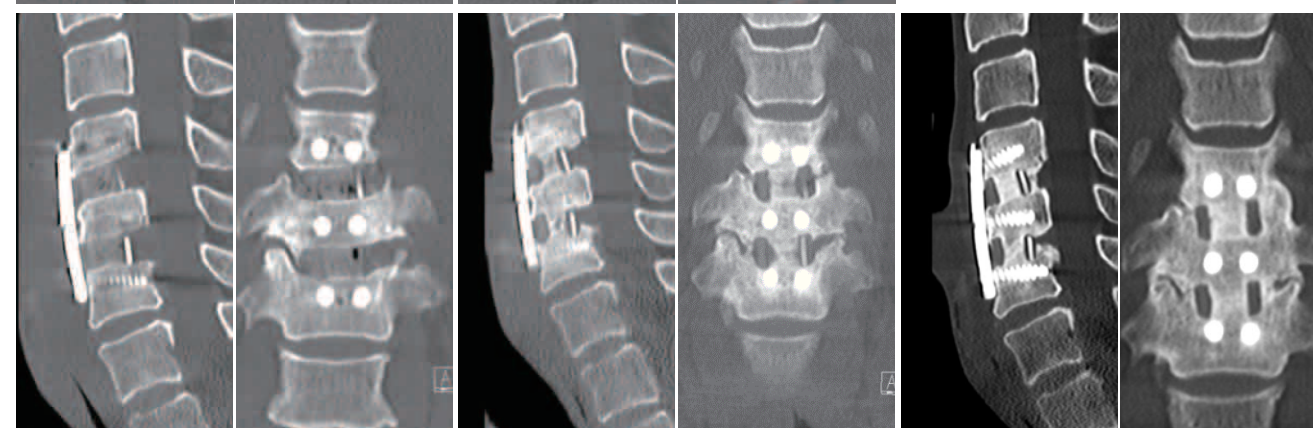
ケージ内に補填



術前 術後1週 術後3ヶ月 術後6ヶ月 術後2年

CT画像

C4/5 C5/6 C4/5 C5/6 C4/5 C5/6



術後1週 術後6ヶ月 術後2年

PB-101010



左上肢挙上困難を主訴に当院へ来院。頸椎症性筋萎縮症に対して2椎間の頸椎前方分節除圧固定術を行い、症例1と同様の方法でPEEKケージ内にリフィットを充填した。術後6ヶ月のレントゲン像において、ケージと椎体とのクリアゾーンを認めず、CT像では症例1と同様に2椎間においても吸収置換を確認し、骨癒合と判定した。術後2年においても椎体間の骨架橋の増加を確認した。術前、上肢挙上は45°であったが、現在150°まで改善している。

【ポイント】

症例1, 2より、リフィットをケージ内に補填した場合、骨吸収置換は上下それぞれの母床骨から開始され連続的に進展する。これは、リフィットの弾力性により移植母床間に間隙を生じないことに起因すると考えられる。

